

# 2019年度 豊田厚生病院外科専門研修プログラム

## 1. 豊田厚生病院外科専門研修プログラムについて

当院は人口約50万人の愛知県西三河北部地区における基幹病院としての役割を担っています。外科の標榜科として、消化器外科、乳腺外科、心臓外科、血管外科、呼吸器外科があり、その医局はすべて名古屋大学医学部に属しています。（消化器外科、乳腺外科、血管外科は名古屋大学第一外科ユニットに属しています。）

当院の研修プログラムは、連携施設と協力し、外科医として必要な知識、技能、態度の基本的臨床能力を習得すること、外科専門医の育成を通じ国民の健康福祉に貢献すること、外科専門医資格を獲得し、その後のサブスペシャリティ領域（消化器外科、乳腺外科、心臓外科、血管外科、呼吸器外科）に連動させることを目的としています。そして患者および医療スタッフから信頼されるプロフェッショナルな外科医を目指します。

## 2. 研修プログラムの施設群

名古屋大学附属病院、半田市立半田病院、八千代病院、国立長寿医療研究センターとで専門研修施設群を構成

## 3. 専攻医の受入数

5名

## 4. 外科専門研修について

### 1.1 初期研修終了後、3年間を予定しています。

3年間の専門研修中、連携施設で6か月以上の地域医療研修を行います。

専門研修の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的臨床能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準に基づいた外科専門医の知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。

### 1.2 年次ごとの専門研修計画

専攻医の研修は年次ごとに達成目標と達成度を評価します。

専門研修 1年目では、麻酔指導医による麻酔研修、虫垂炎、ヘルニア、胆石、乳腺手術などの手術を行い、基本的臨床能力および外科基本的技能の習得を目標とします。

また、外科の救急業務などを通じ、外傷や一般外科救急疾患の対応、手術、術後管理などについて研修します。

院内で開催される医療安全、医療倫理、院内感染対策などの講習への参加、および病棟での他職種との種々の合同カンファレンスを通じ、医師としての倫理性、社会性の習得を図ります。

また、常に最新の医療を学習するように努め、外科に関する論文査読、抄読会を行います。学会活動に積極的に参加し、全国学会および地方会への参加・研究発表を行います。

す。

専門研修2年目では、1年目のdutyに加え、難易度の高い手術の経験、抗がん剤化学療法などの癌診療、後進の指導、論文作成など、外科医としての力量の向上を目指します。

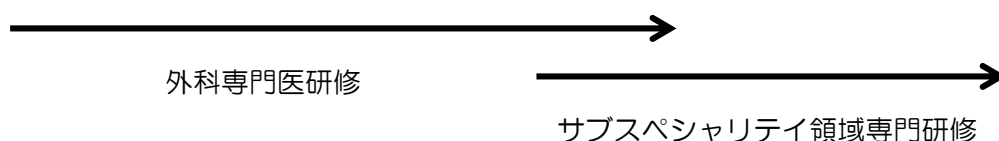
また、専攻医の研修の進み具合、能力に応じ、進路となるサブスペシャリティでの研修を開始します。(当院ではサブスペシャリティにおいて、心臓外科プログラム、および呼吸器外科プログラムを用意しています。)

専門研修3年目では希望とするサブスペシャリティでの研修を行い、領域専門医取得を目指します。また、医療チームのリーダーとして活動し、後進の指導を行います。

研修中3年間における一般外科、心臓外科、呼吸器外科での研修プログラムは別紙1.2.3.

#### 【例】研修モデル

1年次	2年次	3年次	4年次以降
基幹施設	連携施設A	基幹施設	



#### 5. 専攻医の到達目標

日本外科学会ホームページ上の専攻医研修マニュアルを参照

#### 6. 各種カンファレンスによる知識、技能の習得

- ・毎朝ショートカンファレンスで前日の手術症例、緊急入院患者についてのプレゼンテーション、検討を行い、治療計画や患者管理について学習します。
- ・消化器内科との合同カンファレンスを行い、消化器病患者の診断、検査、管理、合併症などを詳細に検討、治療計画を学習します。
- ・病棟での看護師とのカンファレンスで、重症症例の検討を行います。患者、家族からの苦情、要望などについて情報収集、対処するための方策の議論を行い、医師としての対応能力の向上、コメディカルとの関係の構築などを学びます。
- ・最新の外科治療論文の抄読会を行い、最新の外科治療を常に学んでいく態度を身に着けます。

#### 7. 学問的姿勢について

専攻医は、常に向上心を持ち、日々の疑問については自ら調べ、学習する態度、習慣

が求められます。学会活動には積極的に参加、研究発表し、得られた成果を論文として投稿することを義務付けます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。

※日本外科学会定期学術集會に1回以上参加

※指定の学術集會や学術出版物に筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

## 8. 医師に必要なコアコンピテンシーについて

上記には医師としての態度、倫理性、社会性などが含まれています。それらを習得するためには、上級医、指導医師を見て学ぶことはもちろんですが、院内で開催される医療倫理、医療安全、院内感染対策、緩和医療などの講習会への参加や、多職種との合同カンファレンスなどを通じ、医療チームのリーダーとしての医師のあり方などを学習します。

また、学会で開催されるそれらに関連する講習会への積極的な参加を通じて研修を行います。

## 9. 施設群による研修

基幹施設である当院でも地域医療、地域連携の研修は可能ですが、連携施設においては、より特色のある研修が可能となっています。研修の順序、期間については専攻医数、個々の研修医の希望、研修の進捗状況、各病院の状況などを勘案し、外科専門研修管理委員会が決定します。

## 10. 専門研修の評価について（専門医研修マニュアルⅣ参照）

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標が達成できたかどうかを、あらかじめ設定した評価表を使用し指導医およびコメディカルから評価します。

## 11. 外科専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である当院に外科専門研修プログラム管理委員会と外科専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。豊田厚生病院外科専門研修プログラム委員会は、専門研修プログラム責任者（委員長）副委員長、事務局代表者、外科の3つの専門分野（消化器外科、心臓外科、呼吸器外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。構成者として、研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。

また、専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

さらに、専攻指導医について、指導に問題があれば委員会で取り上げ、指導医としての研修計画を立案します。

